

平成 28 年度第 1 回三浦市総合教育会議会議録

○日 時 平成 28 年 12 月 27 日（火） 午前 11 時 00 分～午前 11 時 58 分

○場 所 三浦市役所第 2 分館 2 階第 2 会合室

○次 第

- 1 開 会
- 2 市長あいさつ
- 3 議 事
 - (1)小学校の適正化について
 - (2)その他
- 4 閉 会

○出席者（6名）

市 長	吉 田 英 男
教 育 長	三 壁 伸 雄
教育長職務代理	菊 池 恵
教 育 委 員	松 尾 恒 廣
教 育 委 員	下 里 矩 生
教 育 委 員	玉 井 恵 理

○説明のために出席した職員

教 育 部 長	大 西 太	教 育 総 務 課 長	増 井 直 樹
学 校 教 育 課 長	五 十 嵐 徹	学 校 給 食 課 長	松 下 彰 夫
文化スポーツ課長	堀 越 修 一	青少年教育課長兼図書館長	安 藤 宜 尚
南下浦市民センター館長	小 川 史 郎	初声市民センター館長	見 上 正 行
指 導 主 事	木 村 信 太 郎	指 導 主 事	市 川 昌 樹
指 導 主 事	高 梨 真 一		

○事務局出席者

教育総務課教育総務グループリーダー 長 島 正 紀

○傍 聴（8名）

○大西教育部長 定刻となりましたので、ただいまより、「平成 28 年度第 1 回三浦市総合教育会議」を開会いたします。

本会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 1 条の 4 第 6 項により、原則公開となりますので、ご承知おきください。

(傍聴希望者がおり議長(市長)に許可を受け傍聴者が入室)

まずはじめに、会議の主催者であります吉田市長からご挨拶をいただきます。市長、お願いいたします。

○吉田市長 皆さん、おはようございます。

今年度第 1 回目の総合教育会議を開催いたします。昨年度の 2 月に小学校の適正化について議論をし、情報の収集が必要であることから小学校の適正規模について保護者の方などにアンケートを取らせていただき、傾向としてどのようなご意見をお持ちか把握してその結果を踏まえて議論していくこととなりました。

アンケート結果についてのご意見は後ほど伺いたいと思いますが、拝見するとご意見は多々ありますが、いずれも前向きなご意見でありますのできちんと受け止めて議論していきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

○大西教育部長 ありがとうございます。

それでは、次第 3 の議事に移らせていただきます。

議事の進行につきましては、三浦市総合教育会議の運営に関する要領により市長が議長となっておりますので市長に議長をお願いします。

市長、お願いいたします。

○吉田市長 それでは、議長を務めさせていただきます。

本日の議事は「(1)小学校の適正化について」ですが、まず、先日実施しました小学校適正規模に関するアンケートの集計結果について事務局から説明をお願いします。

○増井教育総務課長 三浦市立小学校適正規模に関するアンケート調査についてご報告いたします。

この調査につきましては、平成 28 年 2 月 22 日に行われた平成 27 年度第 2 回総合教育会議において実施することとされた「現場の意見を聞くために行う学校毎の調査」として実施いたしました。

まずはアンケートの対象でございます。

会議の中で対象とすると決定した市内小学校全校の保護者に、子どもたちの状況を一番よく把握しているとともに、子どもたちにとってのよりよい環境づくりを日々考えている学校現場

の声を聞くために小学校教職員、近い将来、三浦市の小学生となる園児の保護者の声も把握するため市内の幼稚園・保育園に通園する園児の保護者を加えたものとなりました。

小学校児童については、各家庭で1枚のアンケート提出を依頼し、配布も複数アンケートが家庭に届かないよう家庭実数に基づき各小学校で行われました。

幼稚園・保育園児童の保護者については、市内各園に「市内居住の児童保護者に限る」といった条件で配布いただくことをお願いし、保護者には「小学校に通う児童が家庭内にいる場合には、園には提出不要」とのお知らせを添付の上で提出依頼を行いました。

1家庭から複数アンケートが提出されないよう措置を講じたものですが、園児保護者からの回答には、「小学生児童が家庭にいる」といったものもあり、1家庭で複数枚のアンケートが提出された可能性は0ではありません。

しかし、市立小学校に通う兄・姉がいる園児の保護者がいることも考えられますのでそのすべてを複数提出とみなすことはできない等の理由により、集計にあたっては提出された全アンケートを対象としております。

実施期間は、10月17日に配布依頼、11月4日を提出期限とし、回収は、期限経過後速やかに行いました。

回収終了後に数枚遅れて提出されたものがありましたが、集計に加えております。

保護者への提出依頼にあたっては、アンケート記入前に保護者の方々に知っておいていただきたいこととして、学校ごとの児童数の推移と5年後の予想児童数をお知らせしました。

この数字を確認いただいた上で教育環境について考えていただくことを期待したものです。

アンケートの内容について、ご説明いたします。

アンケートは、無記名で実施し、質問項目をなるべく少なくするなど回答のしやすさを意識し作成いたしました。

アラビア数字Ⅰの設問は、集計に利用するための回答者の属性を問うものです。

回答者の性別、年代、住まいの学区、お子さんについてお聞きしました。

アラビア数字Ⅱの設問は、小学校教育について重視する項目を問うものです。

これは、今後の適正規模を考える大本となる教育のあり方についての考え方の把握のための設問となります。

アラビア数字Ⅲの設問は、小学校適正規模への考えを問うものです。

望ましいと考える1学年あたりの学級数、その学級数が望ましいと考える理由を問い、その後で今後の対応としてどういった方向で進むべきと考えるか、学年をまたいだ複式学級への考えをお聞きしました。

問いの最後として、自由記述により三浦の教育への考えをお聞きしております。

続いて、集計結果についてご報告いたします。

集計結果4ページをご覧ください。

小学校の保護者については、アンケートを1,379枚配布し、回収率は69.9%、教職員については、161枚配布し、回収率は88.8%でありました。

幼稚園及び保育園の保護者については、園に690枚配布依頼し、355件の回答をいただきました。

市内幼稚園保育園に通園する児童の保護者の実数が、把握できていないため回収率の算出はしていませんが、神奈川県統計調査による平成28年1月1日の本市の0歳から6歳までの

児童数は873人でありましたので、この数との比較でも約40%がアンケートにお答えいただいていることとなりますし、実際には自宅保育や市外の幼稚園保育園を利用している児童もおりますことから、回収率はそれよりも高率であったと推測しております。

続きまして、回答者の属性等の説明をさせていただきます。

回答の記入者は、約9割が女性でありました。

回答者の年代は、小学校保護者で、半数が40代、4割が30代で、当然のことながら、幼稚園・保育園保護者は、それより若い年代でした。

お子さんの成長のために必要な教育活動と考えている事柄は、「基礎的・基本的な学力を伸ばす教育」「自尊心や思いやりなどの心を育てる教育」「マナーや社会のルールを身につけさせる教育」を選ばれた保護者が多い結果となりました。

1学年あたりの学級数としてよいと思うものについては、1学級がよいと答えたものは小学校保護者で4.9%、幼稚園保育園保護者で4.3%であり、ほとんどの保護者が1学年複数学級であることがよいとの意見でありました。

しかし、現在、児童が通っている小学校の状況別に見てみると少し違った結果が出ています。

現在、1学年複数学級の小学校では、1学級がよいと考えている保護者は非常に少ない状況ですが、現状ですでに児童数が少ない状況である1学年1学級の小学校の保護者では、その10倍以上の約1割が1学級がよいと答えています。

1学年1学級の小学校に通う児童の保護者には、少数児童の学校ゆえのよい点を実感できている方々が少なからずおられることが見て取れます。

各小学校のさまざまな取り組みや教員の努力が、保護者の小規模校への不安をある程度払拭できている結果であると考えます。

反対に現在1学年3学級ある小学校の保護者は約8割が現状の3学級がよいとの意見です。

小学校の学区ごとの意見を小学校と幼稚園・保育園児の保護者の意見を合わせて割合を見ると、現在1学級の小学校では、三崎地区の三小、岬陽小が似た傾向をしめしており、南下浦地区の南小、旭小、剣小も同じ傾向を示しています。

地域間で感覚や考えに少し違いがあるといった読み取りができる結果でした。

その中でも、特に児童の減少が顕著である剣小校区の保護者の2割近くが、1学年1学級が適切な規模と答えており、その割合が、全小学校中一番高かったことは特徴的であると言えます。

現在1学年2学級の名向小・上小校区についても、2校区は似た傾向を示しています。

全体としては、現在1学年複数学級の小学校では、1学級になることは適切でないと考えており、1学年1学級の小学校では、1学級であることへの不安はある程度解消されてはいるものの多数は、複数学級であればよいと考えているといえます。

次に、適切だと考える1学年の学級数を選んだ理由について、選んだ学級数別にまとめました。

1学級が適切と選んだ理由の上位3つの理由は、少数児童を教師等がケアするために生じるメリットをあげたものでした。

2学級が適切と選んだ理由については、少数児童を教師等がケアするために生じるメリットが1位でありましたが、それ以降は多人数での児童間の関わりにより生じる効果となっています。

少人数学校のメリットと多人数でのメリットの両方を獲得できる規模が1学年2学級であるとの考えがあると思われます。

3学級が適切と選んだ理由については、多人数での児童間の関わりにより生じる効果がほとんどですが、4番目に多かった効果として「教師の目が一人ひとりの児童に行き届く」があげられています。

これは矛盾しているようにも見受けられますが、一人の教員が長い時間関わるのではなく、教員多数の目で児童のケアをすることが結果的に児童への目配りが行き届くことになると感じての意見であると推察します。

今後の対応についての考えは、人数的に一番多い意見が「現行のままの配置がよい」でした。保護者全体の32%、小学校保護者では37%の意見です。

大きな差がなく次に多かった意見が、「すべての学校を対象に見直しをすべき」でした。

他の意見とあわせると全体の6割以上の保護者は、何らかの方策をとるべきであるとの意見です。

「文科省の手引きに基づき適正規模化を進めるべき」との意見は少なく、数値により一律に進める適正規模化をほとんどの方は容認していないことがよくわかりました。

担当としては、今後の検討を、慎重に進める必要性を改めて感じる結果であったと認識しています。

学校ごとの結果を見ると、先ほどご報告した適切な1学年の学級数の結果と矛盾したものとなっています。

現状、1学年1学級の小学校の保護者は10%程度しか1学級が適切だと答えておりませんが、この設問には、三小43%、岬陽小45%、南小36%、旭小43%。剣小23%がこのままでよいと答えています。

当事者である児童保護者であるがゆえに、頭で考える適切な規模と実際の生活上望んでいる学校配置は違うといった感覚を持っているといえます。

ここでも剣小保護者は、特徴的な意見の割合を示しています。

半数が「市内すべての学校を対象に対策をとるべき」と答えており、その割合は他校に比べて大変多い上に、現行のままの配置でよいとの考えは、他の1学年1学級に比べて大変少ない結果です。

剣小児童保護者の切実な現状認識が見て取れる結果であると考えます。

複式学級についての考えは、記載のとおりであり、複式学級となっても問題を感じない保護者は、担当が事前に予想した以上に多かったという結果でした。

自由記述意見については、小学校児童保護者のうち339名、幼稚園・保育園園児保護者のうち139名、教職員のうち70名、全体で言うと約4割の方から提出を受けております。

多くが適正規模に関する記述ではありませんでしたが、「直ちに統合を」といった意見から、「小規模校のほうがよい」という意見までさまざまな記載をいただきました。

数としては「統合をふくめた対策が必要と考える」といった記述が多い状況です。

主な意見を集計結果に原文のまま記載しております。

記述を確認する中で多かった意見をご報告いたします。

適正配置により通学距離が長くなることについて懸念は大きく、配置変更をするならば、スクールバスの整備等の対策をとることが前提条件であるとの考えが多く見受けられました。

また、全国学力状況調査の結果から学力向上への取り組みを強化する必要性を感じるため配置変更によりある程度の児童数確保をしたほうがよいとの記述も多かったように感じます。

統合を進めるべきとの意見には、「教育予算の確保のために経費を節減すべき」といったものも散見されました。

以上でご報告をおわります。

○吉田市長 ありがとうございます。

説明は終わりました。まずアンケート自体についてご質問等がありましたらお願いいたします。

○松尾教育委員 このアンケートは真摯にそして率直に回答して下さったと感じております。

その中で 69.9%の保護者、88.8%の教職員が回答してくれていますが、この回収率について事務局はどのように考えますか。

○増井教育総務課長 事務局としては非常に高かったと思っております。

他市で実施されているアンケートも総じて高いと認識しておりますが、本市で最近実施した他のアンケートの回収率と比べると、総合計画策定のために平成 27 年度に行った三浦市民アンケートは回収率 37.9%、平成 21 年度に男女共同参画に関して行ったアンケートは 33.0%、平成 25 年度に子ども・子育て支援事業計画策定のために行ったアンケート回収率は、回答者に図書券を配布するといった回収率を高める方策をとったうえで 60.7%でしたので、今回のアンケート回収率は非常に高く、関心の高さが伺えるものであるといえます。

○菊池教育長職務代理 松尾委員に関連してですが、各学校によって回収率に差がありますがこれはどのように捉えていますか。

○増井教育総務課長 おっしゃるとおり学校によって回収率の差が出ております。一番高い学校は初声小学校で 80.6%、一番低い学校は名向小学校で 54.4%になっており差としては 26.2% 事務局としても差があることが気になり、回収率を上げるためには皆さんに提出を促すことやもう一度アンケートを実施するなどの方策も考えられましたが、全体的には高い回収率であったこと、無記名でのアンケートの提出を尊重すること、もう一度実施となりますとアンケートの信頼性が損なわれるのではないかと考えられることから再アンケートや提出を促すことは致さなかったということでございます。

事務局としては今回の結果は信頼性の高いものだと認識しております。

○吉田市長 学校ごとのアンケートへの取り組みはどうだったのでしょうか。

○増井教育総務課長 お願いしたのは家庭実数に基づいて無記名で提出をお願いしており、その後のアプローチをどのようにするかは各学校に任せておりました事務局より一律でこうしてくださいというお願いはしておりません。

○吉田市長　　その他にありますか。

それではアンケート結果についてどのように感じたかご意見を伺いたと思います。
玉井委員どうですか。

○玉井教育委員　アンケート結果を拝見して保護者の方、教職員のみなさんの多くが統合を望んでいると感じました。

特に小規模校に該当する小学校区の幼稚園・保育園に園児を通わせる保護者の方が何年後かに自分の子どもが通う学校が1学年数名になってしまうことに危機感を持ってられることが意見の中に見られました。

その他に小規模校ではなく統合してある程度の人数的中でいわゆるチームティーチング、複数の教師がクラスの授業にあたって学力向上を図ることが必要という意見もありました。

また、学力だけではなく学級内でトラブルがあった場合に同じクラスで6年間あるいは9年間過ごすことになることも心配な点として見受けられました。

私は仕事柄幼児の保護者と話す機会が多いのですが外国語教育について関心が高いようです。外国語教育だけではなく計算能力等学力の面についてこのままで良いのかという心配の声も聞きます。

三浦ののびのびとした教育も重要だと思っていますが、やはり具体的に学力向上のためにはどのようにすればいいのか検討を進めその方策として統合も含めて適正規模にしていければいいのではないかと思います。

○吉田市長　　1学年複数学級が望ましいと思うのでゆっくりでもいいから統合への方針を示すべきではないかというお考えですか。

○玉井教育委員　　はい、そうです。

○吉田市長　　次に下里委員お願いします。

○下里教育委員　　三浦市の小学校の場合は地域に密着した学校運営をされているのが現状だと思います。

今回のアンケートの結果を受けて感じることは、みなさん統合へ向けていかなければいけないと意識の中では分かってらっしゃる。ですが、それが現実を見て自分たちの子どものことを考えると現状のままでいい。今のほうが先生たちの目が子ども達に行き届くから今のままでいいとそのように考えている保護者の方が多いと感じました。

私たちが客観的に心配していかなければならない事はこれからの日本を担っていく子どもたちにどう教育をしていくか。単学級では往々にして点検がなされないことが多い。複数学級ですと教師同士の競争原理が働く、子どもたちも競争する。そういったことでお互いに切磋琢磨しながら伸びていく。そういったメリットが出てくるのではないかと思います。

この問題については、じわじわと染みとおっていくように少し時間をかけて、みなさんのお考えもその方向であるようですので少しずつ新しい方向に次の世代を育てるようにアプローチしていったら良いのではないかと思います。

○吉田市長 下里委員も複数学級で統合したほうがいいたろうと、ただ、いろいろな意見があるので時間をかけて進めていけばいいというご意見ですね。

○吉田市長 続いて、松尾委員お願いします。

○松尾委員 冒頭にも話しましたが、率直に、真摯にアンケートに答えていただいたことにうれしく思っております。

アンケートの結果を見て、現状のままでよいと答えた方と統合やむなくなれば三浦市全体で検討すべきと答えた方が拮抗しており、大変悩ましいというのが率直な感想です。

小規模校の良さ、三浦らしい教育を恵まれた自然環境をもっと活かしていけばいい。このことを特区的にできないかという良い意見もありました。

統合する際には私自身も分からないところもありますが、できるだけ経済効率性も考え統合したほうが建物等の改善も図れるのではないかという意見もありましたが、本当にそのようになるのかという思いもあります。

いずれかは統合していかなければいけないとは思いますが、中学校の時の統合と違って、もっと地域の人たちの声を聞いて時間をかけて進めないと教育委員会への信頼がなくなるのではないかと思いますのでじっくり時間をかけてやっていかなければならないと思います。

○吉田市長 松尾委員も下里委員と同様な意見ということですね。

○松尾教育委員 はい。

○吉田市長 次に、菊池職務代理お願いします。

○菊池教育長職務代理 今回のアンケートの集計結果を見て様々意見があることがよく分かりました。問題点も浮かび上がってきました。

統廃合の今後の対応についても「現状のままでよい」、「市内すべての学校を対象に見直しが必要である」の意見が拮抗していることがよく分かりました。それぞれメリット、デメリットがあります。

いずれにしても私は教育にもっと三浦の良さを活用していけばいいと思います。三浦には海や野山があり空気がよく子どもを育てる環境にすばらしいものがあります。農業、漁業についても先人から受け継ぐすばらしい伝統があります。こういう環境を活かしながら外から見て「三浦に行って教育を受けたい」、「学ばせたい」、「三浦に移り住んでみたい」と思わせるような施策が必要なのではないかと思います。外から人口が流入することによって少しでも人口減少に歯止めがかけられるのではないかと思います。

学校の再編成についてもみなさんの意見にもございますように市民、保護者、学校の先生と幅広く意見を聞いて急がずに時間をかけてコンセンサスを得ていく必要があると思います。

様々な意見を聞きながら今後の三浦の教育を考えていく必要があろうかと思います。

○吉田市長 ありがとうございます。次に教育長お願いします。

○三壁教育長 今回のアンケートについては、すでに三浦市教育委員会として平成19年、20年に三浦市小中学校教育環境検討委員会により良い教育環境のための提言をいただきました。

このようなことを含めて教育委員会としてやってきました。

今回のアンケートについては、私の記憶では今までなかったものだと思います。大変いろいろな意見をいただいたということは統廃合だけではなく、三浦の教育のあり方についてご意見をいただいたことは三浦の教育行政にとって非常に参考になる内容であったと思います。

統合に関してであります、ご承知の通り三崎中学校と上原中学校が統合して新三崎中学校が平成26年4月1日に開校しました。その統合までに3年かかったという事実があります。

先ほど松尾委員がおっしゃったようにいろいろな課題があるにしても小学校については文部科学省の小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引には地域性を鑑みて、よく地域のみなさんと行政が相談しながら決めていったらいいと出ておりますが平成26年に新三崎中学校が開校し、同じ年に剣崎小学校に課題が浮かび上がりました。13名の新入学児童が予定されていましたが結果3名であった。現在その児童が3年生になっている現実があり、学校と教育委員会とで方策をとりながら交流授業ということも行っているわけです。

いよいよあと5年、6年先にはかなり少子化も進むわけですが、来年、再来年にこの意見を伺った中でやっていかなければならないという思いには私自身は立っておりません。

相対的にいろいろ考えながら時間をかけてやっていかなければならないということは私も同じ意見であります。ですから市長のお考えだと思いますが総合教育会議を今年度もう1回あるいは2回開催し平成29年度を迎えていく中でこれらの意見を集約して検討委員会をもっていくのかどうかを教育委員会としても考えていかなければならないと思っております。

○吉田市長 ありがとうございます。

私からですが、このアンケートはヒアリングの項目もよく出来ていると思います。

無記名により学校に提出してもらうため学校ごとの傾向も分かる等非常にいいアンケートができたと思っております。

先ほど松尾委員の言われたアンケートの回収率についても学校単位でも6割から8割であり非常に高いものだと思います。一般的に行政が行うアンケートでパブリックコメントなどでは回収率は1割や2割ということもあります。また重要事業のアンケートについても1万通出して3千を回収の目安にしており、またこの数値での意見を網羅できると行政では解釈していません。それ等と比べると非常に関心が高いことが分かります。

アンケートの結果を見ますと矛盾する部分もあります。本当は2学級、3学級がいいのだが現在1学年1学級の児童の保護者は統合されるより現状のままがいいという結果が出ています。

ここで言えるのは複式学級の選択はないということでしょうか。

現状維持か統合かの選択になっていくのだと思いますが統合を進めていく中でもいろいろな意見をお聞きして時間をかけてやるべきだという意見が大勢を占めていると思います。私はそれもいいと思いますが時間をかけるというのは限度があります。例えば5年、10年かけて結論を出すというのは私は長いと思いますので、来年、再来年の2年くらいで、タイムスケジュールも含めた方針をきちっと出さなければなりません。そのためには地域の声をお聞き

することは必要になってくると思います。ただし、あまり広く意見を聞きますと多種多様な意見が出てかえって選択が難しくなる可能性もあり、また、今回で一定度の意見の集約はできたと考えておりアンケートの実施についてはこれですとしたいと思います。ただし学校を守っていただいている地域のみなさんから子どもたちにとって何がいいかという意見をお聞きする機会を設けて大筋の意見をまとめていくのがよろしいかと思ひます。

このアンケートの結果で自由意見がありますが、その中で気になりましたのが玉井委員もおっしゃった学力レベルに関する記述ですが三浦市の現状はどうでしょうか。

○五十嵐学校教育課長 全国学力学習状況調査での平均正答率が示されていますが、そこには若干届いていないのが現状です。

○吉田市長 そのことについて学校や教育委員会での取り組みはどうなっていますか。

○五十嵐学校教育課長 調査結果を市全体及び各校で分析し、それぞれ学校で特に基礎基本の学力を身につけさせることの取り組みを進めているところですが、教育委員会ではそれらの取り組みを市で共有し、各学校の取り組みを他の学校でも取り入れることができるようにサポートしており、ここ数年では全国との差が狭まってきています。

○吉田市長 わかりました。今の話は今日のテーマから外れてしまいますのでこの件は、別の機会にしましょう。いずれにしてもいろいろな意見をいただいています。

今回の第1回総合教育会議ではアンケートの結果を受けてご意見をいただきましたが、総じて時間をかけて適正規模への議論を進めていくことについて意見が一致したということで解釈します。

私としては一定度のタイムスケジュールを考え、検討委員会の設置等については教育委員会の中でも検討していただければと思いますが、地域の意見をお聞きする場を考えていただきたいと思ひます

様々な意見がありすべてを網羅することは難しいと思ひますので三浦市として小学校の適正配置・適正規模の考え方をまとめ、そして、その考え方に基づいて今後議論を進めていく形にしたいと思ひております。

総合教育会議として三浦市の小学校の適正化を教育現場、保護者、地域の意見を聞き、子どもたちにとって最も良い方策を期限を決めて取り組んでいく方針を出しましょう。

次の総合教育会議で一定度の方向性をお示しできるように準備をしてください。

次回には地域の声を聞くための懇談会のようなものをどのようにしていくか、小学校の適正化へ向けて大きな方針を打ち出せるように教育委員会で準備をしてください。

その他にご意見ございますか。

○増井教育総務課長 前回の総合教育会議で指示されました地区別児童数の推移についての資料をご用意いたしましたので参考にお持ちください。

○吉田市長 その他になにかございせんか

ないようでしたら、以上で第1回総合教育会議を終わらせていただきます。進行を戻させていただきます。

○大西教育部長 本日予定させていただきました内容はすべて終了いたしましたので、以上をもちまして、第1回総合教育会議を終了いたします。ありがとうございました。

◇ 午前11時58分 閉会 ◇
